アミメ錦蛇 *Python reticulatus* に寄生していた舌虫 *Pentastoma* について

久 木 義 一*

(昭和 51 年 5 月 7 日受付)

Armillifer moniliformis heymonsi (Pentastomoida: Porocephalidae) from the reticulate python,
Python reticulatus

Giiti Kugi (Practitioner, Beppu, Oita Prefecture)

SUMMARY

On June 6, 1970, a number of specimens of tongue worms were collected from the lung of the reticulate python, *Python reticulatus*, which had been captured in Southeast Asia and died in the "Amazonland" located in Beppu, Oita Prefecture. They were identified as *Armillifer moniliformis heymonsi* by the follow morphological characters.

Female: Body length 62 to 85 mm, scolex 6 to

7 mm long and 4 to 5 mm wide, and the number of abdominal rings 27 to 30.

Male: Body length 20 to 24 mm, scolex about 4 mm long and 4 mm wide, and the number of abdominal rings 21 or 22. The ventral part from the posterior of head to the middle of body is armed with about 20 to 24 thorn-like hooks arranged in two rows. Egg is oval, 0.068 to 0.080 mm by 0.050 to 0.058 mm.

緒 言

Class *Pentastomida* Family *Porocephalidae* に関しては成書にもあまり詳細な記載がない。Family *Porocephalidae* は *Armillifer armillatus*, WYMAN (1847) と *Armillifer moniliformis*, DIESING (1836) に 2 大別され、前者はアフリカ産の大蛇から、後者はインド、ビルマ、セイロン、東南アジア、オーストラリアの大蛇から発見されている。別府市のアマゾンランドにて死亡した東南アジア産アミメ錦蛇から舌虫の成虫、雄、雌数十隻を得、検査の結果 *Armillifer moniliformis heymonsi*, SAMBON (1922) であることが判明した。

材 料 お よ び 観 察

1970年6月6日、別府市のアマゾンランドにて死亡した。東南アジア産アミメ錦蛇 *Python reticulatus* を解剖し、その肺および気管より舌虫の成虫雄8隻、雌37隻を得た。虫体の外形は乳白色の長円筒状、頭部は扁平、円天井状の型をしており、頭部腹面に淡黄色の4個の鈎と、その基部にポケット状のものがある。胴体には輪があり、尾端は円錐形を呈し、尖っている。成熟雌では体長62~85 mm、腹輪数27~30個、頭部の幅4~5 mm、長さ6~7 mm、その腹面に4個のすどい淡黄色の鈎およびポケット状の嚢と口とがある。肛門は尾端にあり、生殖孔はその上方約2 mmの腹面に開口している。子宮は黄色で、白色の消化管の前面に位置し非常に多くの蛇行反転をくり返し、屈曲して腹部の大部分をし

めている。その内部は虫卵で充満している。虫卵は68.3 μ ~79.9 μ ×49.9 μ ~58.3 μ で卵膜状のカプセルの中に1個ずつ入っている。腹輪は頭部のすぐ後方では輪も小さく、間隔もほとんどなく、直線状であるが、後方になるにつれて輪も大きく、間隔も開いて最大間隔は4.5 mmにもなる。最後の輪は完全な輪状でなく、背面へ約半分まわっているにすぎない。また腹輪は体軸に対して直角でなく、背面は後方に、腹面は前方に傾斜している。成熟雄は雌よりはるかに小さく、体長20~24 mm、腹輪数21~22個、頭部の幅4 mm、長さ4 mmで頭部の後方腹面に、腹輪の端がバラのトゲ状に、片がわに10~12個、左右で20~24個存在し、後方になるにつれて大き

表 1 *Armillifer moniliformis* の 3 亜種

種 類	性	体 長 mm	腹輪数	宿 主	産 地
1) <i>Armillifer moniliformis moniliformis</i> , SAMBON(1922)	F	76.5~110	23~28	<i>Python molurus</i>	Malaya Java
	M	20~32	27~31		
2) <i>Armillifer moniliformis heymonsi</i> , SAMBON(1922)	F	40~70	27~30	<i>Python reticulatus</i>	Burma
	M	20~30	27~30		
3) <i>Armillifer moniliformis australia</i> , HEYMONS(1932)	F	60~80	32~34	<i>Python amethystinus</i>	Australia
	M	27~28	28~37		

F : 雌 M : 雄

* 大分県 開業 (大分県別府市南的ヶ浜2-27)

写 真 説 明

- (1) 肺の中の虫体 (2) 成 虫
(3) 虫体切開図、腹面 (4) 子宮および虫卵 (40 倍)
(5) 虫 卵 (400 倍)

数、宿主、産地から考えて本種は *Armillifer moniliformis heymonsi*, SAMBON (1922) と同定した。

結 語

今回 *Python reticulatus* の肺および気管から得られた *Armillifer moniliformis* の雄、雌の成虫を精査したところ、体長、腹輪数、宿主、産地から *Armillifer moniliformis heymonsi*, SAMBON (1922) と同定した。

文献を分与載いた麻布獣医科大学板垣 博教授と校閲を賜った奈良教育大学沢田 勇先生に深謝する。なお本論文の要旨は第 24 回日本寄生虫学会南日本支部大会で発表した。

文 献

- 1) HEYMONS, R. & VITZTHUM, H. GRAF: *Beitrage Zur Systematik der Pentastomiden* (Zeitschrift für Parasitenkunde) Vol. 8, 1~103 (1935).
- 2) 板垣四郎, 板垣博: 家畜寄生虫学, 第 1 版, 358~559, 東京, 金源出版 (1965).
- 3) J. TEAGUE, SELF: *Biological a Bibliography on the Pentastomida Experimental parasitology*, 24, 6~119 (1969).
- 4) SLOCOMBE, J. OWEN D. and JOAN BUDD: *Armillifer brumpti* (Pentastomida) in a BOA in Canada, *Journal of Wildlife Diseases*, Vol. 9, No. 4, 352~355 (1973).

考 察

Armillifer moniliformis, DIESING (1836) については、現在のところ *Armillifer moniliformis moniliformis*, SAMBON (1922); *Armillifer moniliformis heymonsi*, SAMBON (1922) と *Armillifer moniliformis australia*, HEYMONS (1933) の 3 種が報告されている(表 1)。いずれも体長、腹輪数、宿主、産地で区別されている。今回のものは体長、腹輪

くなっているが、体の中央部で消失し腹輪のみとなる。雌にくらべ腹輪の間隔が極めてせまく最大間隔約 1mm にすぎない。寄生状態は肺の実質内に頭部を進入させ 4 個の鈎で鈎着し、尾部をわずかに出している。鈎は非常に強力である。運動はゆるい屈進をする。